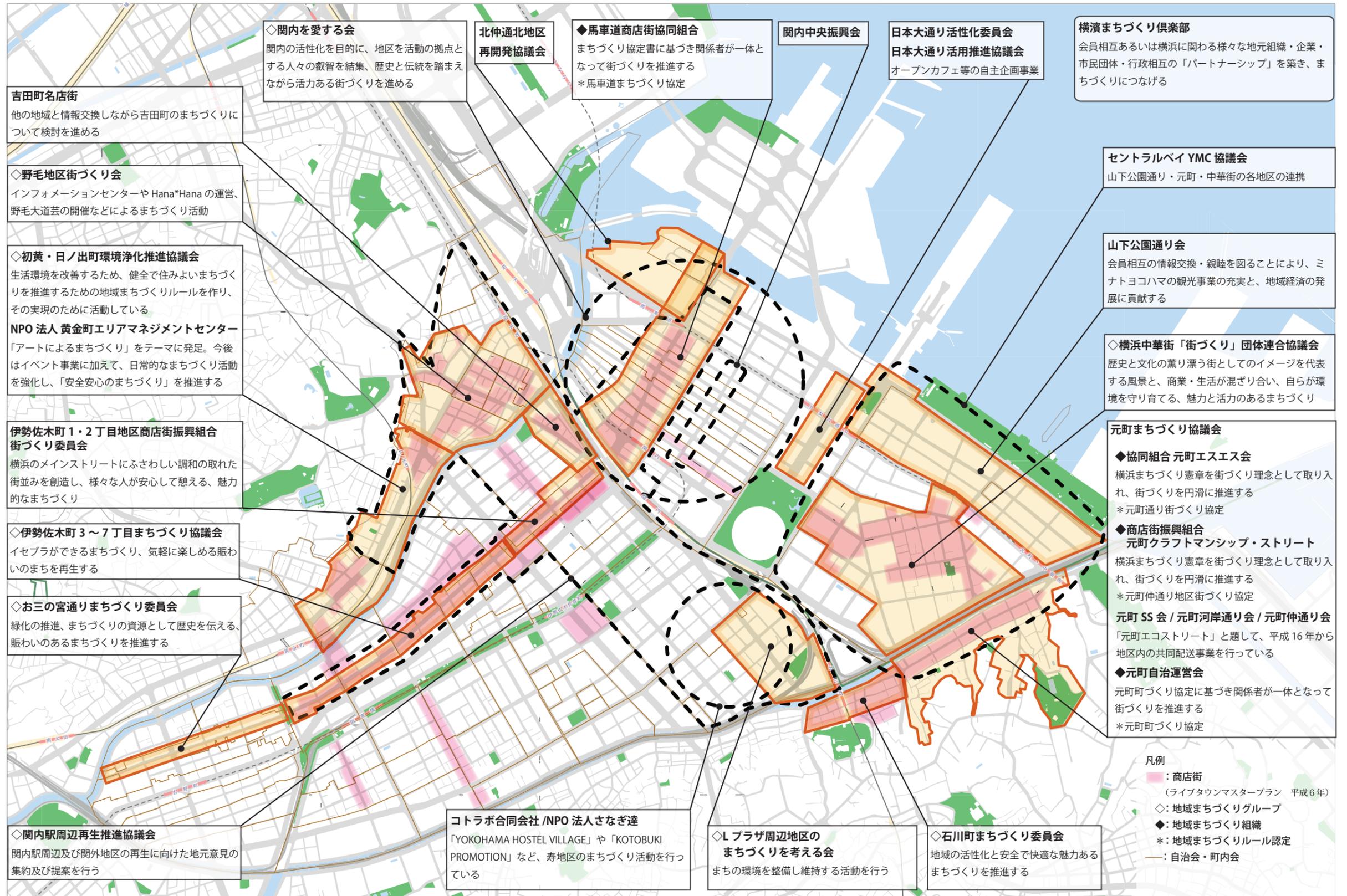


# [13] まちづくりの担い手の分布

## 自治会・町内会・商店街等と主な市民活動エリアの分布

- ・ 関内地区は、商店街エリアと自治会町内会エリアが一致していません。
- ・ 関外地区は、自治会町内会エリアの一部が商店街エリアとなっています。
- ・ 地域まちづくり登録グループや地域まちづくりルールがある地区など、自治会・町内会の組織以外にも市民活動をしているエリアがあります。
- ・ また、まとまったエリア内の活動だけでなく、エリアを超えて、まちづくりの担い手として活動しているグループも存在します。



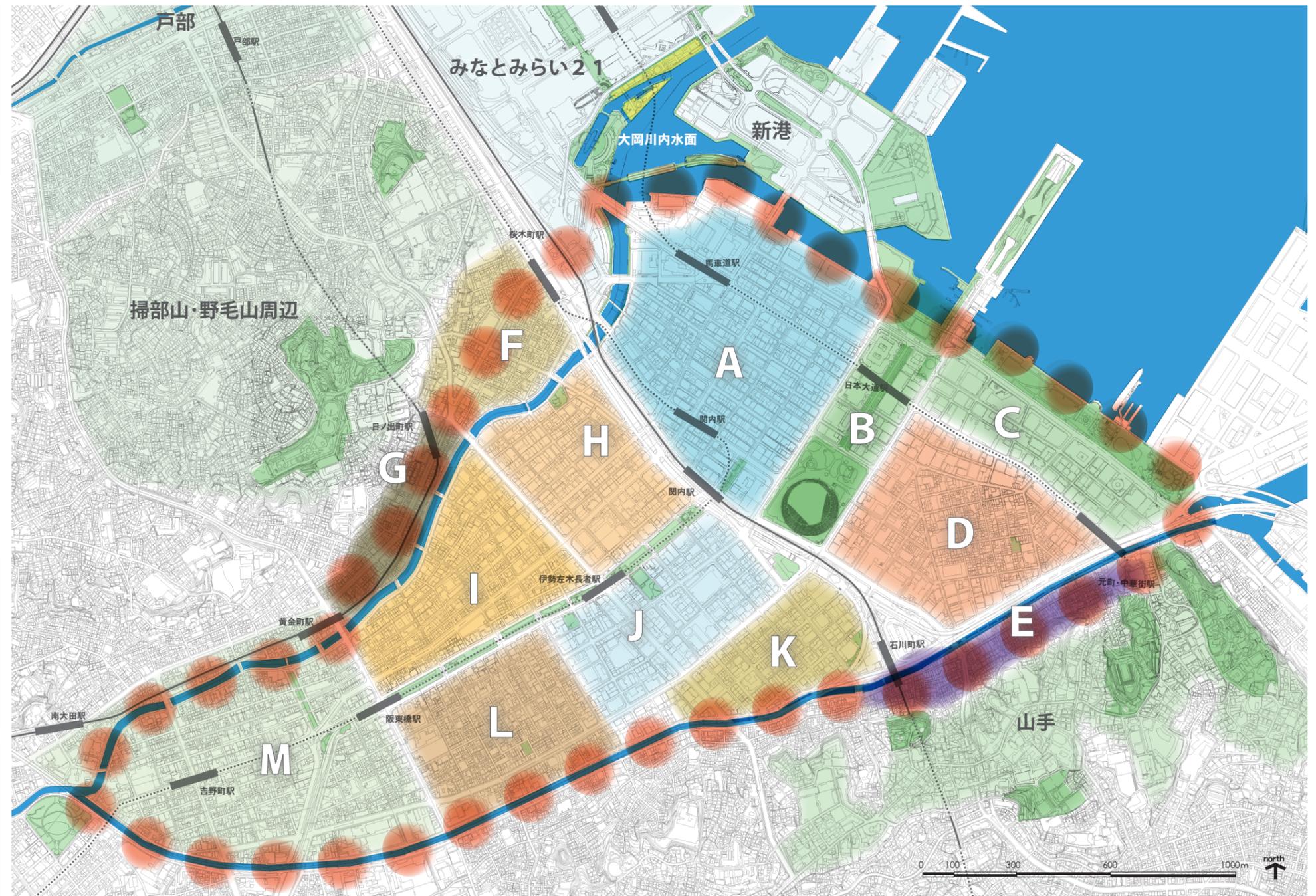
**課題**

・自治会・町内会・商店街や市民活動団体の連携を通して、個々のエリアの活性化を図っていく必要があります。

0 本計画の構成  
1 策定に当たって  
2 関内・関外地区の現状の把握分析  
3 基本方針（活性化の目標像）  
4 12の戦略と取組アイデア  
5 優先的取組の視点  
6 新市庁舎整備の考え方

[14] 関内・関外地区のエリア別の主な現況・課題

<p><b>A地区</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス・商業の街</li> <li>・空オフィスの増加</li> <li>・戦災復興建築などの老朽建物の更新、利活用の必要</li> <li>・共同住宅の増加</li> <li>・馬車道の歴史ある商店街</li> <li>・安全で快適な歩行環境</li> </ul>	<p><b>B地区</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・象の鼻パーク、日本大通、横浜公園と連なる緑豊かな横浜を代表する都心空間</li> <li>・公共空間を活用したオープンカフェ等による賑わいの創出</li> </ul>
<p><b>C地区</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海からの顔となる山下公園通り沿いの街並み景観</li> <li>・新県民ホールの整備</li> <li>・高層共同住宅の増加</li> </ul>	<p><b>D地区</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的にも有名な中華街の賑わい</li> <li>・高層共同住宅の増加</li> <li>・迷惑行為等モラルの低下</li> </ul>
<p><b>E地区</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的にも有名な元町商店街</li> <li>・安全で快適な歩行環境づくり</li> <li>・駐車場不足</li> </ul>	<p><b>F地区</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜の下町としての賑わいの集積</li> <li>・高層共同住宅の増加</li> <li>・大道芸等による地域の魅力創出</li> <li>・東横線廃線以降の活性化の必要性</li> </ul>
<p><b>G地区</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・違法店舗撤退後の空き店舗活用の必要性</li> </ul>	<p><b>H地区</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢佐木町の歴史ある商店街</li> <li>・チェーン店の増加</li> <li>・吉田町等世代交代による新たな魅力ある店舗の増加</li> <li>・松坂屋の撤退等による活力の低下</li> <li>・多様な文化を背景とする人々、店舗の集積</li> </ul>
<p><b>I地区</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢佐木町の歴史ある商店街</li> <li>・多様な文化を背景とする人々、店舗の集積</li> <li>・共同住宅の増加</li> <li>・未利用地の増加</li> <li>・国道16号沿いの性風俗店進出</li> </ul>	<p><b>J地区</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜文化体育館、横浜市教育文化センター、横浜市立横浜総合高等学校等、市所有の市民利用施設や学校について耐震補強への対応</li> <li>・共同住宅の増加</li> </ul>
<p><b>K地区</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の機械化による日雇労働者の減少や外国人バックパッカー等を対象としたホステル化等による街の変容</li> <li>・高齢化日雇労働者のケア</li> </ul>	<p><b>L地区</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下町情緒豊かで賑やかな横浜橋商店街</li> <li>・多様な文化を背景とする人々、店舗の集積</li> <li>・共同住宅の増加</li> </ul>
<p><b>M地区</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街再生の必要性</li> <li>・共同住宅の増加</li> </ul>	



**課題**

- ・関内・関外地区は、魅力資源が多数あり、また、新たに生まれつつあります。それらを結びつけ、個性的な街づくりが行われているところもありますが、全体としては、各界限の魅力が効果的に発信できてはいません。また、多彩な界隈の集積による相乗効果も十分に発揮できていないといえます。
- ・ウォーターフロントの魅力づくりとともに、関内内陸部や関外の立地条件や地域資源等を活かした魅力づくりが求められています。
- ・関内・関外地区は、様々な界隈が存在し、全体としてのイメージや構造が分かりにくくなっています。都市軸や水・緑・賑わいのネットワーク、回遊動線の明確化などが必要です。

0 本計画の構成  
 1 策定に当たって  
 2 関内・関外地区の現状等の把握分析  
 3 基本方針（活性化の目標像）  
 4 12の戦略と取組アイデア  
 5 優先的取組の視点  
 6 新市庁舎整備の考え方